

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第4項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成23年2月25日

【四半期会計期間】 第54期第3四半期(自平成22年10月1日至平成22年12月31日)

【会社名】 ケンコーマヨネーズ株式会社

【英訳名】 KENKO Mayonnaise Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 炭井 孝志

【本店の所在の場所】 兵庫県神戸市灘区都通三丁目3番16号
上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記「最寄りの連絡場所」で行っております。

【電話番号】 該当事項はありません。

【事務連絡者氏名】 該当事項はありません。

【最寄りの連絡場所】 東京都杉並区高井戸東三丁目8番13号

【電話番号】 03-5962-7777

【事務連絡者氏名】 常務取締役 奥田 洋

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所
(大阪府中央区北浜一丁目8番16号)

1 【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

平成23年2月14日に提出いたしました第54期第3四半期（自平成22年10月1日至平成22年12月31日）四半期報告書の記載事項の一部に誤りがありましたので、これを訂正するため四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2 【訂正事項】

第2 【事業の状況】

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

（1）経営成績の分析

3 【訂正箇所】

訂正箇所は__を付して表示しております。

第2 【事業の状況】

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(訂正前)

(1) 経営成績の分析

中略

当第3四半期連結累計期間における売上高は38,614百万円（前年同四半期比824百万円の減少、2.1%減）、連結営業利益は2,302百万円（前年同四半期比111百万円の減少、4.6%減）、連結経常利益は2,252百万円（前年同四半期比78百万円の減少、3.4%減）、連結四半期純利益は1,264百万円（前年同四半期比117百万円の増加、10.3%増）となりました。

中略

各報告セグメントの状況は次のとおりであります。

調味料・加工食品事業

調理加工食品 はポテトサラダ、ツナサラダ及び明太子、春雨、パンプキンを使用した商品が製パン・外食向けなどで伸張し、数量が増加いたしました。

マヨネーズ・ドレッシング類 は、当社を取り巻く環境の変化に起因する減収要因がありましたが、お客様の様々な用途・要望にお答えできる形態戦略を進めたことにより、小型形態のドレッシングが伸張するなどの成果につなげてまいりました。

タマゴ加工品 は、焼成パン用のミックスエッグ、サンドウィッチ用のフレッシュエッグ、調理パン・麺類用の茹卵がコンビニエンスストアで採用され大幅に増加いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は31,941百万円、セグメント利益は1,976百万円となりました。

総菜関連事業等

天候不順による野菜などの原料高騰に対し、製造コスト低減を図るための経費削減対策、利益改善となる不採算取引見直しを継続的に行いました。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は6,011百万円、セグメント利益は278百万円となりました。

(訂正後)

(1) 経営成績の分析

中略

当第3四半期連結会計期間における売上高は13,180百万円（前年同四半期比42百万円の減少、0.3%減）、連結営業利益は774百万円（前年同四半期比59百万円の減少、7.1%減）、連結経常利益は759百万円（前年同四半期比50百万円の減少、6.2%減）、連結四半期純利益は442百万円（前年同四半期比43百万円の増加、11.1%増）となりました。

中略

各報告セグメントの状況は次のとおりであります。

調味料・加工食品事業

調理加工食品 はポテトサラダ、ツナサラダ及び明太子、春雨、パンプキンを使用した商品が製パン・外食向けなどで伸張り、数量が増加いたしました。

マヨネーズ・ドレッシング類 は、当社を取り巻く環境の変化に起因する減収要因がありましたが、お客様の様々な用途・要望にお答えできる形態戦略を進めたことにより、小型形態のドレッシングが伸張するなどの成果につなげてまいりました。

タマゴ加工品 は、焼成パン用のミックスエッグ、サンドウィッチ用のフレッシュエッグ、調理パン・麺類用の茹卵がコンビニエンスストアで採用され大幅に増加いたしました。

この結果、当第3四半期連結会計期間におけるセグメント売上高は10,851百万円、セグメント利益は678百万円となりました。

総菜関連事業等

天候不順による野菜などの原料高騰に対し、製造コスト低減を図るための経費削減対策、利益改善となる不採算取引見直しを継続的に行いました。

この結果、当第3四半期連結会計期間におけるセグメント売上高は2,117百万円、セグメント利益は76百万円となりました。